

我が著書を語る

「古事記日本神話の故郷は玄界灘の島々だった！」

～神話を伝承と科学で読み解く古代史論～(株)ドリームキングダム 湊能碁呂太郎
著

1500(税別)円



筆者は中学校理科教師であり、福岡県玄界灘の孤島である小呂島に赴任することとなった。そこで小中学生と行った植物調査や古代測量法の実験をきっかけに、小呂島の謎の古代史研究に取り組むこととなる。

まず、古代天皇家が、最も重要視した植物であるビロウ(ヤシ科)自生地の分布から、小呂島が古代の祭祀対象だったと推定した。さらに、古事記の国生み神話の記述と照合して、小呂島と能古島の合名が、日本神話で最初に登場する、オノゴロ島であると比定した。

また、伊邪那美命が生んだ島のうち小六島が全て、玄界灘の島々であることを解明した。古事記に記述されている島の「亦の名」は、定説の島々では意味不明であるが、玄界灘の島々ならば全て意味が合致することを発見した。

本研究は、九州限定の歴史雑誌「忘却の日本史」での連載企画「小呂島と国生み神話の島々」(6号から13号まで)をまとめ、「オノゴロ先生の古代史説明シリーズ1」として刊行したものである。本研究を第5回個人研究発表会で発表したところ、投票により1位を獲得し、平成29年の東京地区講演会で講演した。本書の特徴は以下。

- 1.現役理科教師による古代史探求本であること
- 2.古代人の測量法を実験により推定していること
- 3.神話は事実に根差し脚色されたものとし、国生み神話は玄界灘の出来事だったことを、古事記に記載される島の「亦の名」から立証していること
- 4.立証の方法として、古事記・日本書紀の記述のみならず科学的考察を加え、推論していること
- 5.特に遺跡や神社の所在地やその方位について、検証した結果をyahoo地図で確かめられるよう、地図アドレスを記載していること

史上初、国生み神話の起源を科学的に考察した本である。これは、今後の邪馬台

国所在地解明にとって、大きな鍵となるはずである。お求めは九州の書店、もしくは「ブン企画」http://www.bun-kikaku.co.jp/products/book_onogoro.html まで。